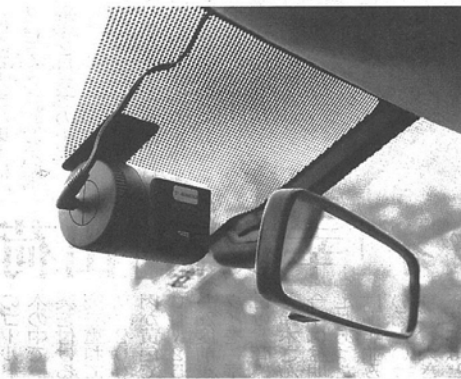


# 危険交差点改良に貢献

## ドライブレコ 公用車事故も減少 柏市実証実験

柏市は公用車200台にドライブレコーダーを搭載して約1年4カ月間行った実証実験「柏市交通安全プロジェクト」の成果を公表し、取り組みを継続して防犯対策にも広げる新プロジェクトを始めた。公用車の事故減少や、危険運転が多発した交差点の改良策に貢献。車の急減速を感知した時にのみ作動していた録画機能を常時に変え、防犯対策にもつなげていく。



柏市が実証実験で公用車に搭載したドライブレコーダー（オリエンタルコンサルタンツ提供）

プロジェクトは2014年11月～今年3月、市が交差点からドライブレコーダーを無償で借り受けて実施。民間企業「オリエンタルコンサルタンツ」の事故減少を目指すこと

もに急ブレーキが多発する交差点などを割り出す狙いで、運行経路や急減速の発生位置などのデータを収集した。

市交通政策課によると、同社がデータを踏まえて作成した診断やレコーダーの映像を使い、各課が職員に安全運転を指導。15年12月の公用車の事故件数は導入前の14年から5件減の9件になった。15年2月には5千件強あった急ブレーキ「ヒヤリハット事象」も同12月には2千件を割った。同課は「レコーダーの搭載で職員が安全運転を意識した成果」と分析する。ヒヤリハット事象が多発した交差点など市内3カ所では、改良工事を実施。市がそれぞれの道路で見通しの悪さの原因になっていた植栽の刈り込みやカーブミラーの増設、注意看板の設置を行い、事故減少に向けた対策とした。

て市立柏第4小学校で行った交通安全教育では、児童が歩き慣れた道路での急ブレーキ事例などを紹介。同課は「危険を実感することで、安全意識の向上につなげてもらえた」と話

す。市はプロジェクトの成果を評価し来年3月末まで、事業費183万円を使って常時録画型のドライブレコーダーをパトロール車など稼働率の高い公用車30台に

搭載。引き続き事故減少や児童向けの教育用ホームページの作成に取り組むとともに、「動く防犯カメラ」として防犯対策にも活用していく。